

平成19年度事業 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金

成果報告書



多摩市 くらしと文化部市民活動支援課

平成20年7月

目次

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要.....	1
審査・評価の方法	1
審査委員(第1期).....	1
平成19年度応募事業の経過	2
平成19年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表.....	3
各事業の成果(以下事業名)	
(1)高齢者いきいき祭 グラン多摩フェスタ2007	4
(2)東寺方小学校檜の森にホタルを復活し檜を守る	6
(3)第20回文庫展「子どもと本の広場一本の世界であそぼうー」.....	8
(4)第17回映画祭TAMA CINEMA FORUM	10
(5)人間ばん馬の街・置戸 -自然環境と都市生活を体験する交流事業	12
(6)「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver2.0.....	14
(7)ハッピーママズ・スクール.....	16
(8)多摩市聞こえと補聴器の相談会	18
(9)運動会他・イベントの企画立案とその実施(貝取地域)	20
(10)こども古典芸能体験教室	22
(11)貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり.....	24
(12)運動会、レクレーション等の立案企画とその実施(連光寺/聖ヶ丘地域)	26
(13)NPO法人多摩草むらの会のめざすもの“十年を迎えて見えてきたもの”	28
(14)アジア・太平洋女性連盟国際会議	30
(15)住民がつくる安全なまちプロジェクト	32

「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金」の概要

この補助金は、市民団体が自主・自発的に行う、多摩市のまちづくりに役立つ公益的な事業に対し、事業の経費の一部を補助するもので、「新しい公共」の考え方のもとに、多摩市に「新たな支え合い」の担い手を多数創出して、地域の公共サービスを豊かに展開していくことを目指したものです。

補助対象事業は公募方式により募集し、第三者機関（多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会）による厳正な審査を経て決定します。

平成 19 年度審査・評価の方法

予備審査：（形式審査）

必要要件の不備がないか等の形式審査

本審査（書類選考・プレゼンテーション）

以下の基準に基づき審査し、交付の優先順位を決定します。

（平成 20 年度事業の募集から審査・評価の方法は変更されています。）

【事業についての基準】

公益性

多摩市らしさ

時代性・社会状況・市民ニーズの把握

先駆性・独創性

目的・目標、計画の妥当性

【事業を運営する団体の基準】

運営が閉鎖的でなく、広く開かれた組織であるか

申請する事業を行うにあたって、適正な規模・内容を保有しているか

事業規模に見合った自己負担能力を有しているか

これまでの活動実績はどうか

【プレゼンテーション】

公開プレゼンテーションの実施

審査委員(第 1 期)任期:平成 17 年 8 月 12 日から平成 19 年 8 月 11 日まで

委員長:炭谷 晃男 学識経験者(大妻女子大学教授)

副委員長:松井 望 学識経験者(首都大学東京研究員)

委員:大槻 一夫 学識経験者(大槻会計事務所所長)

委員:寺田 桂子 学識経験者(フラワーオフィス草苑代表)

委員:小山田 哲治 公募市民

委員:川原崎 由夫 公募市民

委員:中條 隆一 公募市民

現在の「多摩市市民提案型まちづくり事業補助金評価市民委員会」は第 2 期です。

任期:平成 19 年 8 月 23 日から平成 21 年 8 月 22 日まで

平成 19 年度事業の経過

説明会：18年8月26日（市役所） 8月30日（NPOセンター） 9月6日（市民活動情報センター）にて本補助金の主旨や申請に関する説明会を開催し、延べ18名の参加者がありました。

募集・受付：平成18年9月1日から10月2日まで
19事業（団体）の応募があり、プレゼンテーション実施までに2事業の申請取り下げがありました。

書類審査：平成18年11月2日、11月26日

応募事業のパネル事前展示：平成18年12月5日から12月9日

公開審査：公開プレゼンテーション：平成18年12月10日（日）関戸公民館市民ロビー

- 各事業8分+質疑応答7分（合計15分）で、17の事業（団体）のプレゼンテーション及び審査を行いました。
- 応募17事業全て交付すべきとの結果となりました。
- 交付決定後、2事業（団体）から申請取り下げがあり、15事業となり、総額8,595,000円交付をしました。



応募事業の実施：平成19年4月1日～平成20年3月31日

成果報告会：平成20年7月6日：関戸公民館市民ロビー

15事業（団体）の参加により成果報告会及び情報交換会を実施しました。

決算額15事業の総合計：8,047,000円

4ページ以降に各団体の活動内容・自己評価表、収支決算の内訳表を掲載しています。

平成 19 年度 多摩市市民提案型まちづくり事業補助金 交付額・精算一覧表

(単位：円)

優先 順位	事業名 (団体名)	全体事業費 (決算時点)	補助対象経費 (決算時点)	概算(当初) 交付額(円)	決算 補助金
1	高齢者いきいき祭 グラ多摩フェスタ2007 (多摩市高齢者社会参加拡大事業運営協議会)	434,210	431,426	237,000	237,000
2	東寺方小学校檜の森にホタルを復活し檜を守る (東寺方自治会)	175,356	175,356	240,000	87,000
3	第 20 回文庫展「子どもと本の広場一本の世界であそぼう」 (多摩市文庫連絡協議会)	394,860	357,740	331,000	286,000
4	第 17 回映画祭 TAMA C I N E M A F O R U M (TAMA映画フォーラム実行委員会)	16,847,083	16,014,143	2,375,000	2,375,000
5	人間ばん馬の街・置戸 -自然環境と都市生活を体験する交流事業 (永山地区・置戸町の交流を進める会)	263,092	195,060	187,000	146,000
6	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクト ver2.0 (Artists Link Tama)	1,278,544	1,247,874	780,000	748,000
7	多摩市魅力発見市民マップづくり (多摩ケンケンガクガクの会)	(20.1.31)	申請取り下げ		
8	ハッピーママズ・スクール (NPO子育て応援団そらいろのたね)	1,049,028	927,688	919,000	732,000
9	多摩市聞こえと補聴器の相談会 (特定非営利活動法人 多摩市聴覚障がい者情報活動センター)	232,575	220,040	154,000	154,000
10	運動会他・イベントの企画立案とその実施 (貝取地域スポーツ振興会)	856,516	260,045	226,000	156,000
11	多摩市消費生活フォーラム (多摩市消費者団体連絡会)	(19.4.9)	申請取り下げ		
12	こども古典芸能体験教室 (多摩市古典芸能に親しむ会)	1,701,028	1,332,707	811,000	799,000
13	貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり (貝取こぶし館 緑花委員会)	276,876	254,881	202,000	202,000
14	運動会、レクレーション等の立案企画とその実施 (連光寺/聖ヶ丘地域スポーツ振興会)	836,000	422,075	197,000	189,000
15	NPO法人多摩草むらの会をめざすもの “十年を迎えて見えてきたもの” (NPO法人「多摩草むらの会」)	939,579	619,950	335,000	335,000
16	アジア・太平洋女性連盟国際会議 (プログレス・ジャパン)	5,876,672	2,941,737	1,315,000	1,315,000
17	住民がつくる安全なまちプロジェクト (NPO夢のマネジメント社)	1,023,139	541,999	286,000	286,000
合 計		32,184,558	25,942,721	8,595,000	8,047,000

事業名	高齢者いきいき祭 グラン多摩フェスタ 2007
団体名	多摩市高齢者社会参加拡大事業運営協議会
事業の目的	高齢者の社会参加を促進させ、高齢者のいきがい活動を支援し、地域の中で高齢者を支え合うことで、地域福祉の充実と高齢者の健康・福祉の増進及び市民文化の発展・向上を図ること。
主な事業実施内容	文化祭的事業・演劇事業に向けて定期的に打ち合わせを行った。 12月21日:演劇事業(永山公民館ベルブゼミにて公演) 1月26日:文化祭的事業(地域ふれあいフォーラム:関戸公民館) 3月1日:演劇事業(関戸公民館にて公演)
参加者	文化祭的事業:420人 演劇事業:217人
事業の成果	<文化祭的事業> 第3回地域ふれあいフォーラム持込企画として参加実施。関戸公民館市民ロビー「わくわくどきどきひろば」を会場に出会いと交流をめざす内容で行った。 多摩市茶道連盟と協働し、多摩三曲協会の協力を得て和楽器の演奏を楽しみながら茶道のデモンストレーション。 武術研究家「甲野善紀さん」の講演・実演・体験。介護などに役立つ実演もあり、質問も多く寄せられた。 ステンシル教室では、親子・高齢者の参加の中、世代交流ができた。 <演劇事業> 「桃太郎」をモチーフに、「うた」「踊り」「アクション」ありの芝居をつくり公演した。高齢者が持っている様々な能力を生かす内容でもあり、小学4年生から86才まで45人の出演者が参加した。 観客も参加できる内容のため、共に楽しむことができた。

総事業費	434,210 円
補助対象経費	431,426 円
補助額	237,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	<p><文化祭的事業> 介護に役立つことについて、じっくり話を聞いたり実演・体験したいという声が多く寄せられた。</p> <p><演劇事業> 再演を待ち望む声が多く寄せられた。今回車イス利用の方が多く、車イス車両の手配をもらいたいとの要望があった。</p>
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<p>文化祭的事業では、様々な分野で注目されている講師を招いたため、多摩市外からの問合せがいくつもあったなど、多くの人が期待している内容で実施できて良かった。</p> <p>演劇事業では、高齢者の持っている様々な能力をこれまで以上に生かしてもらえ、「自分は役に立っている」「喜んでもらえている」というやりがいを生み出す事業を一緒につくり上げることができた。</p>
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	<p>会場費・音響・照明費など、演劇事業では必須な経費を補う工夫としては、公民館主催の演劇事業への参加も検討していきたいと考えている。</p>

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
自己資金(負担)	194,426 円	
まちづくり事業補助金	237,000 円	
収入合計	431,426 円	

< 支出の部 >

人件費	47,456 円	会場設営・撤去(アルバイト)
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	26,000 円	地域ふれいあフォーラム講師
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	96,207 円	消耗品・印刷など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	181,700 円	音響・照明、伴奏・編曲、横断幕・看板、振り付け
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	46,000 円	公民館
保険料等	0 円	
その他必要な経費	34,063 円	クリーニング、舞台演出、記録費など
支出合計	431,426 円	

事業名	東寺方にホタルを復活し檜の森を守る
団体名	東寺方自治会
事業の目的	子ども達に自然を慈しむ心を醸成し、命の尊さを学ばせる。檜の森を保全し自然環境の大切さを経験させる。ホタルの復活活動を通じ地域連帯の絆を強固にする。
主な事業実施内容	6月: ゲンジホタル9匹視認、校長・児童見学 6月・7月: 板橋ホタル飼育施設館の夕べに参加 8月: 和菓子“福ホドル”大福餅を盆踊りで販売 8月: 幼虫を顕微鏡で観察後、2万匹を谷戸池に放流 3月: 環境と長寿講演会 星旦二首都大学教授
参加者	
事業の成果	<p>取り組み1年目にして昨年の6月6日から27日まで3匹から9匹のホタルが飛翔するのを、児童、地域のお年寄りと確認できたことは大きな感動でした。ホタルが光るのを初めて見て歓声をあげた児童の喜びの声が忘れられません。</p> <p>また、地元の和菓子店に協力をもらい、“福ホドル”というオリジナル大福餅を販売できたことは、資金面だけでなく自治会活動のPRと今後の自治会活動の発展の可能性という意味において意義があると思います。ホタルの活動を通じ、多くの団体や人と知り合いになれた関係も大事に温めていきたいと思っています。子ども達に命や環境を大切にする心がこのホタル復活で少しでも醸成されるとともに、地域絆の強化に役立つと確信しています。</p>

総事業費	175,356 円
補助対象経費	175,356 円
補助額	87,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	色々な方から電話や声かけがあり、大きな勇気をいただいた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	地域会員の真摯な努力で、一応の成果が確認でき自信に結びつけられ、大いに評価しています。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	福ホドルも 3 万余の収入をあげることができましたが、思った以上の努力と手間がかかっています。いかに効率化を考えるべきかと思います。当学校との連携と、次の学校探しが大きな課題であります。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
福ホドル収益金	30,280 円	
自己資金(負担)	58,076 円	
まちづくり事業補助金	87,000 円	
収入合計	175,356 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	10,000 円	環境講演会
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	158,776 円	谷戸池浄化のためのクレソン・セリ、柳の植栽、消耗品など
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	6,580 円	通信費、記録費など
支出合計	175,356 円	

事業名	第20回文庫展 子供と本の広場 本の世界で遊ぼうー
団体名	多摩市文庫連絡協議会
事業の目的	子供たちの読書環境を整備、推進するため、身近なところで活動する文庫の存在を多くの市民に知らせる。絵本の原画を鑑賞することで想像力、思考力、社会性を高めたい。子供に本のすばらしさを伝えることを目的とする。
主な事業実施内容	平成19年7月から定期的に準備会・打ち合わせを開催 平成20年2月23日～2月27日まで：「第20回文庫展」開催 (展示、絵本クイズ、ちくちくタペストリー、お話会) 2月24日：浜田桂子さんによる講演会「絵本のとびらをひらいた」
参加者	来場者数：1816名。参加スタッフ：43名
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ● 絵本原画に接して、その芸術性に感動する人が多く、絶賛する感想文もたくさん頂いた。絵本と見比べて鑑賞することで、絵本に興味を持ってもらった。 ● 講演会を聴くことで作家の人となりを知り、親しみを感じてくれた。 ● お話会には多数の来場者がありお話の世界に浸ってもらえた。 ● 絵本クイズでは、絵本を読み返し、絵本により親しんでもらえた。 ● ちくちくタペストリーでは、子供たちも針を持って自分で、縫い上げ手作りの喜びを味わってもらえた。高齢の方も参加して喜ばれた。 ● 催し物すべてが講評で、幅広い年齢層の人達に喜んでもらえたと自負している。多摩市民の文化、教養、社会性を高め、本のすばらしさを伝えた。

総事業費	394,860円
補助対象経費	357,740円
補助額	286,000円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本原画を観る機会が無いので、これからも是非継続して欲しい ・絵本作家の話聞く機会が無いので、とても良かった ・絵本に親しみが湧いた ・実際に子供の参加できる企画があり良かった ・近隣の保育園5園から、約450人来場し、お話会等楽しんでもらえた
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ1年かけて準備してきたので内容も充実し、赤ちゃんから高齢者の方まで幅広い年齢層の人達に来ていただき喜んでもらえた。 ・とても良かったと評価している。目的は十分達成できたと思う。 多摩市にはこのような取組みをしている団体はないので、市民の文化レベルの向上、子供の読書環境のレベルの向上に多いに貢献できたと評価している。 ・第20回まで継続できた事で多摩市の文化の歴史の一端を担っていると自負している。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・会場費等、できるだけ低価格でできるように検討したい。 ・チラシ、ポスターも手作りで、冊子も低価格で作ってもらえるよう見当したい。 ・利益を追求する団体、組織ではないので多くの方のカンパに頼らざるを得ないが、バザー等で収益を少しでも上げられるように努力したい。 ・多摩市教育委員会に働きかけて、市の協力を仰ぎたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
販売収入	14,543 円	
頒布資料販売費	22,680 円	
冊子掲載協賛金	2,000 円	
自己資金(負担)	32,517 円	
まちづくり事業補助金	286,000 円	
収入合計	357,740 円	

< 支出の部 >

人件費	35,520 円	会場設営・撤収、イベント会場の受付等
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	20,110 円	講演会講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	131,659 円	頒布用資料、ポスター・チラシ作成、案内状作成、冊子作成、コピー
機器類の賃借(レンタル)料等	60,000 円	絵本の原画借用料
イベントなどの会場等の使用料	57,300 円	公民館使用料
保険料等	6,230 円	原画借用の為の保険料
その他必要な経費	46,921 円	原画搬送、装飾用花代、記録、通信等
支出合計	357,740 円	

事業名	第17回映画祭TAMA CINEMA FORUM
団体名	TAMA 映画フォーラム実行委員会
事業の目的	この事業の目的は二つ。「市民による日本映画の活性化」と「『映画・映像』を通じた“まち”づくり」である。前者は 創り手と観客の交流、市民の手で才能ある若手映像作家の発掘、映画関係者と映画ファンの交流、等々を行う。後者は映画・映像を通して幅広い市民層の交流をはかることにより「市民の広場」としての役割を果たす。このことにより映像の街・TAMA を全国にアピールし活気あふれるまちづくりに貢献していく。
主な事業実施内容	毎月2・3回の実行委員会、自己資金調達活動(5月～10月30回、24社訪問) 宣伝活動(委員会、チラシ配付、インターネット委員会 多数) 11月17日～11月25日(映画祭) 11月18日(TAMA NEW WAVE コンペディション)
参加者	延べ17,633人
事業の成果	延べ参加人数が昨年よりも大幅に減少したが、市民が中心となって運営している全国の映画祭のなかでは、高崎映画祭と本映画祭が観客動員で抜きん出ていることに変わりはない。 遠方からの参加者も多数あったことは、映画祭だけではなく多摩市の知名度を上げることに貢献している。映画という幅広い年齢層に訴求する娯楽・芸術を提供し、10代以下並びに50代以上の多摩市民の参加が例年以上に多かったのは少子高齢化問題に直面している多摩ニュータウンの活性化に貢献していると言える。 大林宣彦監督・井筒和幸監督、愛川欽也監督、松田美由紀氏など日本映画界に大きな足跡を残した作家・俳優を招いて観客とのコミュニケーションの場を提供できたことは、映像文化の啓蒙という役割を果たしている。 他の映画祭や事業と比較して公的資金の費用対効果(参加者一人当たりの公金の支出)が優れている(最小の経費で最大の効果)と言える。 昨年より多摩市在住の若手作家もこの映画祭を通じて生まれたのを始め、劇場公開を成し遂げた作家を何人も輩出し、全国の若手作家たちのなかでTAMAのコンペディション受賞というのが大きな目標となって、多摩市(この映画祭)に目を向けてくれるようになった。

総事業費	16,847,083 円
補助対象経費	16,014,143 円
補助額	2,375,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	毎年の晩秋の風物詩として楽しみにしている市民が増えている、1年間の集大成として質の高い作品が見られるので、これからも続けてほしい、多摩市といたら“芸術の街=映画祭の町”と日本中に認知してもらうことで多摩市の知名度を上げてほしい、等の要望が寄せられている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	遠方からの来客も多く、映画祭においては知名度はかなり高いと評価する。これは多摩市民のみを対象にする事業が多い中で文字通り多摩市発の唯一の全国向けイベントとして評価できると思う。都市(地域)間競争が激しい昨今ではこのような市民が誇れる全国向けのイベントは欠かせないし、“街”としての価値を高めることに貢献していると思う。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	より多くの市民・映画ファンに協力いただけるような運営を心がけていく。また、経費を削減しても集客力を高められるような広報活動を充実していく。具体的には前者は支援会員制度の普及であり、後者は経費を掛けない広報宣伝活動の工夫である。その他に開催期間を短期集中型に変えることで凝縮した企画で費用対効果を上げていくと共に近隣市への支援の働きかけもしていく。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
入場料	6,262,600 円	
支援金	3,400,000 円	文化庁国内映画祭支援
協賛金	700,000 円	
販売収入	223,801 円	パンフレット等売店売上
寄付金	373,000 円	支援会員会費(1口1,000円×373口)
自己資金(負担)	2,679,742 円	
まちづくり事業補助金	2,375,000 円	
収入合計	16,014,143 円	

< 支出の部 >

講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	802,722 円	ゲスト出演、司会者謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	4,069,853 円	印刷、会場設営、記録、宣伝
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	3,200,867 円	映写、記録、会場設営、宣伝
機器類の賃借(レンタル)料等	6,519,500 円	映写機材借上、フィルム借上
イベントなどの会場等の使用料	255,600 円	施設使用
その他必要な経費	1,165,601 円	駐車場、チケット販売手数料、通信、フィルム搬送、振込み手数料等
支出合計	16,014,143 円	

事業名	人間ばん馬の街置戸 自然環境と都市生活を体験する交流事業
団体名	永山地区・置戸町の交流を進める会
事業の目的	永山地区の子どもたちと置戸町の子どもたちが隔年毎にそれぞれの街を訪れ、ホームステイをしながら親元を離れての生活、世代を超えた多くの人たちの交流などにより、子どもたちの自主性・協調性を養うと共に自然環境や生活スタイルが大きく異なる大都市東京の生活の様々な体験を通じて意識の高揚を促すことを目的とする。
主な事業実施内容	7月28日:永山地区の子どもたちの歓迎交流、ホームステイ先へ 7月30日:富士山まかいの牧場で交流 7月31日:埋蔵文化センター・パルテノン多摩等施設見学 8月1日:国会議事堂・NHK博物館等都内見学 8月3日:NHKスタジオパーク等 置戸町へ帰路
参加者	置戸町の子どもたち14名、永山地区の子どもたち延べ150名
事業の成果	北海道置戸町の子どもたちが大都市・東京多摩市の永山地区の生活実態を体験する。ホームステイを通じて子ども同志の交流、親元を離れての生活・永山地区の子どもたちと富士山での自然環境を通じて交流と体験が出来たと思います。 北海道ではできない大都市東京・多摩市の体験は、子どもたちの自主性・協調性を養うことができます。来年度は、永山地区の子どもたちが北海道の大自然にふれあうことになります。

総事業費	263,092円
補助対象経費	195,060円
補助額	146,000円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	この事業は地域の協力なくしては成り立ちません。ホームステイの確保等地域に根付いています。地域全体の事業として評価されると思います。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	この事業は子どもたちの成長過程で貴重な体験事業だと考えています。特に地域のコミュニティを形成する上で学校・地域の協力で地域力を付けていくことでも重要な事業と評価しています。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	この事業は地域に根付いたもので、子どもたちの育成を通じて地域力を育てる事業にしたいと思います。永山地区の体験を青少協会長会に情報を提供し地域での取り組みを促していきたいと思います。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
会費	20,000 円	
寄付金	20,000 円	
自己資金(負担)	77,092 円	
まちづくり事業補助金	146,000 円	
収入合計	263,092 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	26,000 円	報告書作成・印刷費
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	169,060 円	借り上げバス費用
支出合計	195,060 円	

事業名	「多摩」を音楽で溢れる街にしようプロジェクトver2.0
団体名	Artists Link Tama
事業の目的	「多摩の音楽」を1つのアイデンティティとして内外に積極的に発信していくことで多摩像を創り上げ、かつその「多摩＝音楽に溢れた街」というイメージを地元の各団体の事業に活用していただけるようなネットワークを構築していくことを目的とする。
主な事業実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週土曜日のビックバンドの練習 ・10月7日：聖蹟桜ヶ丘の中央商店会との連携でのイベント運営 【第3回 せいせきハートフルコンサート ～耳をすませば～】 ・9月23日：ビックバンドお披露目イベント(多摩永山情報教育センター) 【スイングジャズを秋風に乘せて ～多摩で鈴木正男が市民ビックバンドを育てた～】 ・2月9日：「Music On Tama vol.2」(アウラホール) 「Tama Swing Jazz Orchestra 第一回定期演奏会」(同日・同場所)
参加者	約 640 名
事業の成果	<p>今年度の成果として、大きく2つ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビックバンド運営を円滑に進められ、市民向けに成果発表ができた。 <ul style="list-style-type: none"> ・メンバーも順調に揃い、イベントに向けて練習に励むことができた。 ・プロのクラリネット奏者「鈴木正男氏(市内在住)」が本事業の趣旨に賛同され、協力を得られた。 2. 自主イベント開催のノウハウ蓄積と課題点の明確化。 <ul style="list-style-type: none"> ・市民の皆様が必要としているイベントになっていないために、集客が芳しくない。事業として採算が取れない現状が見えてきた。 <p>イベント開催に関しては、改めて市民ニーズの把握を行い、可能な限りコストをかけずに実施・運営できる方法を見い出して行きたい。</p>

総事業費	1,278,544 円
補助対象経費	1,247,874 円
補助額	748,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることはできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	贅沢なようだが、市民は気楽に参加でき(入場料なし)、かつ、質の高いパフォーマンスを期待していると感じた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	イベントの実施・運営等のノウハウは十分蓄積できつつある。また、音楽を楽しむ場の提供として、一般的な社会人バンドとは異なり、地域への還元活動へも目を向けることができ、非常に良い方向へ進んでいると評価している。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	来年度はさらに補助率が低くなるので、収入安定化を図る必要がある。ピックバンドはファンクラブを開設し、より多くの市民に情報を提供し、認知度をUPさせる。団体の賛助会員制などを検討し、理解を得るとともに市民に支えられて市民活動を行うという体制にしていきたい。自主イベントは、コンセプトを再考する必要がある。

< 収入の部 >

項目	金額	内容
協賛金	30,000 円	
入場料収入	76,000 円	
出演料	90,000 円	
募金	20,000 円	
お祝い金	10,000 円	
打上余剰金	3,500 円	
会費	250,000 円	ピックバンド会費
利子	237 円	
自己資金(負担)	72,000 円	
まちづくり事業補助金	748,000 円	
収入合計	1,299,737 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	200,000 円	アーティスト謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	258,567 円	チラシ印刷、ポスター印刷、新聞折込、広告、記録、コピー、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	385,350 円	イベントPA費用
機器類の賃借(レンタル)料等	50,000 円	楽器レンタル
イベントなどの会場等の使用料	305,167 円	民間施設、公民館
保険料等	6,500 円	イベント傷害保険
その他必要な経費	42,290 円	Web サイト保守費用、通信費
支出合計	1,247,874 円	

事業名	ハッピーママズスクール
団体名	NPO子育て応援団そらいろのたね
事業の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子育て中の母親が、仲間と共に学び、リフレッシュする場の提供。 2. 長い子育て期を心身ともにゆとりをもって過ごせるよう、人の輪を広げることで生活の豊かさをふくらませ、子どもとともに自分を育てていくための仲間作りを支援する。 3. 母子ともに健康で豊かな生活をしていく上で役立つ講座の提供。 4. 母親には子どもを一時保育に預けることを体験してもらい、子どもには保育者や他の子どもと保育室で遊ぶという体験をしてもらうことにより、一人で子育てするのではなく、地域の中で支えられて一緒に子育てをしていくことへの第一歩とする。
主な事業実施内容	<p>0歳赤ちゃんタッチケア：(毎月実施)4月7日、5月15日、6月20日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、1月15日、2月19日、3月18日</p> <p>1歳赤ちゃんタッチケア：(毎月実施)4月8日、5月16日、6月21日、7月18日、8月29日、9月19日、10月17日、11月21日、12月19日、1月16日、2月20日、3月19日</p> <p><保育付き講座></p> <p>ちゃれんじ！トイレトレーニング：7月11日</p> <p>美しい母になろう！産後のセルフケア講座：12月6日、12月20日、2月28日、3月6日</p>
参加者	430組の母と子が参加した
事業の成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅で子育てする母親にとって、自分のために使える時間は少ない。それは長い育児期を心身ともに元気で子どもと向き合っていく上で非常に厳しいことであり、母親のストレスは大きい。子育てを一人で背負わず、地域で仲間作りをすることによって子育てがラクになる。この事業はそのきっかけ作りを支援することができた。 2. 母と子のタッチケアは、ベビーマッサージやタッチングを取り入れた遊びの提供により、母親のリフレッシュと、育児のスキルアップ支援、育児相談室の役割、子育ての仲間作りを支援することができた。

総事業費	1,049,028 円
補助対象経費	927,688 円
補助額	732,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	保育付き講座は4回の実施にとどまったが、保育の利用も少なかった。子どもと一緒に楽しみたい参加者が多く、赤ちゃんタッチケアは人気があり、赤ちゃんをダンベル代わりにしたお母さんのリフレッシュ体操やベビーマッサージが好評である。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	スタッフのスキルも向上し、自信がついてきた。地域の中に社会貢献できる場をもつことに喜びと誇りを感じ、よりよい場作りへの意欲が増している。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	このような事業を体力のない市民団体が継続して実施していくことに限界を感じている。市が主催して、企画運営を市民団体に委託することはできないのか検討して欲しい。市民団体には、経験を積んだスタッフとこれまで積み重ねてきたノウハウ・アイデアがある。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
参加費	194,171 円	左記以外の参加費及び保育料など 121,340 円の収入は補助対象外経費に充当した
自己資金(負担)	857 円	
まちづくり事業補助金	732,000 円	
収入合計	927,688 円	

< 支出の部 >

人件費	58,840 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	610,000 円	赤ちゃんタッチケア+産後のセルフケア 29 回
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	27,348 円	印刷費、材料費
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	199,500 円	ホームページ更新費、チラシ制作費
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	5,250 円	公民館等施設利用料
保険料等	15,300 円	グループ保険
その他必要な経費	11,450 円	通信費、振込み手数料
支出合計	927,688 円	

事業名	多摩市聞こえと補聴器の相談会
団体名	NPO 法人多摩市聴覚障がい者情報活動センター
事業の目的	高齢者・中途失聴者・中途難聴者等の生活向上と社会参加の増進を図る。
主な事業実施内容	実行委員会(毎月) 6月24日:第10回多摩市聞こえと補聴器の相談会(総合福祉センター) 11月11日:第11回多摩市聞こえと補聴器の相談会(永山公民館)
参加者	第10回:28名 第11回:27名
事業の成果	<p>第10回は、申込み開始半日で定員に達した。第11回は事前予約22名、当日受付5名。やはり聴こえに悩んでいる人は多いと言える。</p> <p>相談に来られた方へ聞き取り調査を行った結果によると、説明が丁寧でよくわかり、親切に相談にのってもらってよかった、聴力レベルや補聴器のこともよくわかり満足したという感想がほとんどだった。また、聞こえを補う機器の展示コーナーには、通りがかりの方たちも多く訪れていた。</p> <p>このような相談会があることは重要であり、今後も続けて開催してほしいという声が多かったが、継続開催していくことの負担が重くなっている。是非、公的団体の主催で行ってほしい。</p>

総事業費	232,575 円
補助対象経費	220,040 円
補助額	154,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	耳鼻科では十分に相談に乗ってもらえず、補聴器販売店では高い補聴器を買わされる心配がある。この相談会では、言語聴覚士の資格を持った相談員に、聞こえに関する悩みを安心して相談できる。このような場所があるのはありがたいという市民ニーズにこたえられたと思う。今回は視覚障害者数名の参加もあった。又、この相談会は本人だけでなく家族が難聴者を理解する場ともなっている。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	11回にわたりこの事業を続けてきた結果、聞こえに関する悩みを持っている人が潜在的に多いということがわかった。難聴は周りの理解も得にくく、対処の仕方を知らない人が多い。今回、家族向けにコミュニケーション配慮という冊子を作り、来会者全員に配布した。本人の悩みは大きく、継続開催が望ましい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	負担が年々重くなり、残念ながら来年度は補助金による開催ができない。相談は個人のプライバシーに関わる問題でもあるので、参加者がより安心して参加するためにも公的団体の主催が適していると思われる。今回、多摩ボランティアセンターが相談会の視察など協力的に動いていただいたのは大変ありがたい。何とか公的団体主催で今後もこの事業を継続していけるように努力したい。

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
寄付	36,575 円	
自己資金(負担)	42,000 円	
まちづくり事業補助金	154,000 円	
収入合計	232,575 円	

< 支出の部 >

人件費	30,730 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	148,000 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	21,900 円	
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	10,250 円	
保険料等	2,920 円	
その他必要な経費	6,240 円	
支出合計	220,040 円	

事業名	運動会・他イベントの企画・立案とその実施
団体名	貝取地域スポーツ振興会
事業の目的	貝取近隣地域の人々にスポーツ・レクリエーション等の振興を通して、住民のコミュニケーションと健康促進を図る目的で3事業を行った。
主な事業実施内容	7月1日:ソフトボール大会実施 10月14日:運動会実施 2月3日:歩こう会(雪のため中止 他団体と情報交換と懇親会を行った)
参加者	ソフトボール大会:180名 運動会:800名 歩こう会:10名
事業の成果	事業を通して、地域のコミュニケーションを図り、健康促進の手伝いや日頃なかなかコミュニケーションがとれない方々のふれあいの場となった。 また、地域各団体と協力しあい、相互の目的達成のための環境作りの実現の場となった。 (ボランティア活動・世代間交流を含む)

総事業費	856,516 円
補助対象経費	260,045 円
補助額	156,000 円

決算内訳は、次ページ



写真上
運動会の最終種目：リレー



写真右
歩こう会：出発直後

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	1. 地域のコミュニケーションを図りたい(仲間・友達づくり) 2. 日頃の運動不足を解消したい 3. 高齢者が歩くことに実感し、健康づくりをしたい
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	1. 参加しやすい事業が企画でき、展開できたと思う 2. 健康づくり、友達づくりができ、親睦のよこびを体験してもらえた 3. 継続を求める声が多く評価できる 4. 中止(天候により)となった事業は反省点として来期は検討する
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	1. 進む高齢化に向けて参加意欲を高める工夫をしながら、地域に即した事業の展開と資金面で自立は難しいが会費アップも考える 2. 継続事業については、一定額補助金(昔のように)制度が望ましい 3. 振興会でなければできない生涯スポーツや地域世代間交流の場作りが展開できるよう努力したい

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
ソフトボール大会参加費	12,000 円	@2,000 × 6 チーム
事業協賛金	20,000 円	地域団体より
歩こう会参加費	1500 円	@150 × 10 名
利息	51 円	
自己資金(負担)	70,494 円	
まちづくり事業補助金	156,000 円	
収入合計	260,045 円	

< 支出の部 >

人件費	26,000 円	ソフトボール審判、運動会救護
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	132,245 円	ポスター・チラシ、消耗品、通信費
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	15,000 円	広報車、放送機材
イベントなどの会場等の使用料	33,800 円	コミセン、公園、学校
保険料等	53,000 円	傷害保険
その他必要な経費	0 円	
支出合計	260,045 円	

事業名	こども古典芸能体験教室
団体名	多摩市古典芸能に親しむ会
事業の目的	我国の優れた伝統文化である古典芸能を体験することで、子ども達の伝統文化に対する理解や関心を深め、豊かな感性を育むことを目的とする。
主な事業実施内容	豊ヶ丘中学校:中2 選択音楽(赤駒祭)、中3 研究授業、全学年全クラス 貝取中学校:中2 総合学習、中1・2 全クラス 東愛宕中学校:中1・2 全クラス、中3 選択音楽 和田中学校:中2 選択音楽 永山中学校:中1全クラス 落合中学校:中2 選択音楽 多摩中学校:中2 全クラス 南鶴牧小学校:5・6 年生 大松台小学校:5・6 年生
参加者	9校、約 1200 名
事業の成果	和楽器の歴史や構造を説明してから実際に体験し、1 回の授業でやさしい曲を演奏するところまで持っていくことにより、充実感・達成感を子ども達が持てた。 音を聞いて何を表現しているかイメージするなど、日本の伝統的な音楽の良さを発見し、感性を高めることができた。

総事業費	1,701,028 円
補助対象経費	1,332,707 円
補助額	799,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しく参加した学校も増えた。 ・ 教育効果が高く、学校側の評価も高い。生徒・父兄からもより時間を増やしてほしいとの要望あり。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3年目になって、より短い時間で有効な授業をすることができた。年々伝統文化に対する関心が高くなってきている。全クラス・選択音楽と両方で高い評価を得た。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導要領で伝統文化が重視されることになったので、より行政との連携を進めていきたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
協賛金	60,000 円	
自己資金(負担)	473,707 円	
まちづくり事業補助金	799,000 円	
収入合計	1,332,707 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	1,120,000 円	10,000 円 × 112 回
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	12,707 円	チラシ印刷、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	0 円	
機器類の賃借(レンタル)料等	200,000 円	三味線、琴レンタル
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	0 円	
支出合計	1,332,707 円	

事業名	貝取こぶし館内外及びその周辺の美化と癒しの環境づくり
団体名	貝取こぶし館 緑花委員会
事業の目的	貝取こぶし館の利用者は、年間約8万人、館に沿った道路利用の地域住民を加えると延約 10 万人余の人々が何らかの形で貝取こぶし館に関わっている。まちづくり事業補助金で、癒しの場としての環境の整備や維持管理、さらに地域住民との交流に努め、花や樹木への関心と愛情を深めるようにすすめたい。
主な事業実施内容	定例の毎月事業(委員会、生垣剪定、花壇整備、毎週散水) 5月 : 苗の挿し芽、挿し木(研修と実技) 7月 : 挿し木講習会 9月 : 腐葉土作成ボックス作成 10月 : 春の球根の植え付け(研修と実技) 11月 : 生垣の補修 1月 : プランターの塗装
参加者	活動参加委員 延べ約 332 名(33 日)、利用者等は貝取こぶし館行事や利用者並びに周辺通路の利用者は多数であるが、不特定で不明。
事業の成果	1.補助金で用具を整備することや用土・薬品類が購入でき、緑花委員会活動がしやすくなった。 2.館内外の環境が目に見えて整備されてきたので、貝取こぶし館の行事や館の利用者並びに周辺道路の利用者の関心が深まってきている。 緑花委員会活動への協力者が増加してきた。 作業中に通りがかりの住民から 「ご苦労さま、いつも花を楽しみにしています。」という激励や感謝のことばや、「これは、何という花ですか。」「家に同じ花があるのですが、この頃花のつきが悪いが、よい手入れの仕方は。」……等々、園芸相談まで、声をかけてくる住民が増えてきている。

総事業費	276,876 円
補助対象経費	254,881 円
補助額	202,000 円

決算内訳は、次ページ



種から苗を育てる



通学路の落ち葉を清掃し、腐葉土づくりに生かす

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	補助金により、館内外の環境を整備することができたので、館の利用者並びに周辺道路の利用者の関心が以前よりいっそう深まってきた。 緑花活動への協力者が増加してきた。 緑花活動中に、住民から、激励や感謝のことは、ときには個人の園芸相談までの声かけが増えてきた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	従来の花壇の一般的な手入れと違い、用具や用土を整備することができ緑花活動がしやすくなった。 さらに、地域住民の協力者が増加したこと、環境整備に対する地域の関心の深まりと広がりが強く感じられるようになった。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	1.多摩市内の緑花活動を行っている公的な機関(例えば、グリーンライブセンター、ひじり館等)と連携を進め、緑花委員会活動を地域住民とともに広げて行きたい。 2.緑花活動に必要な肥料等は、さらに腐葉土づくりを広げて補えるように努めていきたい。 3.花壇で育てた花等の販売収入で、自立資金を蓄え、用土や薬品の購入費を補っていくように進めたい。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
補助金	20,000 円	貝取こぶし館特別会計より(活動費として)
事業収入(販売収入)	1,568 円	花の売り上げ
銀行利息	57 円	預金利息
自己資金(負担)	31,256 円	
まちづくり事業補助金	202,000 円	
収入合計	254,881 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	244,411 円	花苗、用土、肥料、用具、その他
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	0 円	
保険料等	8,000 円	障害保険料
その他必要な経費	2,470 円	通信料
支出合計	254,881 円	

事業名	運動会等イベントの企画立案とその実施
団体名	連光寺 / 聖ヶ丘地域スポーツ振興会
事業の目的	連光寺 / 聖ヶ丘地域のスポーツ、及びレクリエーションの普及、振興を通じ地域住民のコミュニケーションと健康促進をはかる。 実施事業 ハイキング大会 地域運動会 ミニマラソン大会
主な事業実施内容	4月22日:ハイキング大会(よこやまの道・大谷戸公園) 10月14日:地域大運動会(聖ヶ丘中学校) 2月11日:ミニマラソン大会(あいさつ道路) 各事業の前後に実行委員会(準備打ち合わせ)
参加者	参加者:連光寺・聖ヶ丘地域住民 ハイキング大会:200名、運動会:1200名、ミニマラソン大会:300名(内競技者160名)
事業の成果	この事業を通じ、連光寺 / 聖ヶ丘地域のコミュニケーションを図り親密の密度高揚と健康促進が図れた。 地域の各種団体(コミュニティーセンター、青少協、防犯協会など)と協力し、補完し合い相互の目的達成の相乗効果を目指す運動会では、地域で行われている文化活動の発表の場を提供出来た。 地域との連携強化により、多摩大学、聖ヶ丘小中学校によるボランティア活動の拠点としての環境づくりを実現できた。

総事業費	836,000円
補助対象経費	422,075円
補助額	189,000円

決算内訳は、次ページ



地域運動会



ミニマラソン大会

< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	できた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	ミニマラソン大会は、子ども達の忍耐力・集中力・体力の向上及び日頃の親子の対話不足などに貢献できた。 運動会については、竹とんぼ教室を実施し、親子のふれあいに多いに貢献できた。車椅子高齢者の招待は、交流の場のメニューの一つとして受け入れられた。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	地域を考えた(幼児、子ども、大人、高齢者、身体の一部不自由な方)事業将来の提案事業が見えてきた。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	将来は、大栗川振興会・貝取振興会や新たな地域との連携を考えに入れて事業を進めて行く。本村その他の自治会の参加を呼びかける。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
ハイキング参加費	14,100 円	
ミニマラソン参加費	15,990 円	
地域協賛金	190,000 円	
銀行利息	106 円	
自己資金(負担)	12,879 円	
まちづくり事業補助金	189,000 円	
収入合計	422,075 円	

< 支出の部 >

人件費	0 円	
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	0 円	
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	248,883 円	通信、プログラム印刷、資料印刷・コピー、聖火トーチ、賞状など消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	77,000 円	三糸、竹とんぼ、救護員、体操、会場整理等
機器類の賃借(レンタル)料等	19,062 円	レンタカー、電気コード
イベントなどの会場等の使用料	9,400 円	打ち合わせ：ひじり館、大谷戸公園使用料
保険料等	67,730 円	3 大会分
その他必要な経費	0 円	
支出合計	422,075 円	

事業名	NPO法人多摩草むらの会のめざすもの“十周年を迎えて見えてきたもの”
団体名	NPO法人「草むらの会」
事業の目的	<p>草むらの会は、創立10周年を迎えるに当たり、記念として、講演と音楽の会を開く。講演は、一般の方々に鬱病を理解してもらうための啓発を目的とし、年齢を問わず多くの人達に起きる病である鬱病を知っていただき、対処法やケアの仕方を紹介するため、老若男女を問わず、なるべくたくさんの方に来ていただくことを目標にしている。</p> <p>音楽会では、シャンソンを聴き、華やかなフラメンコを鑑賞していただき、来場された皆さんに溢れる元気を持って帰って頂きたいと願っている。</p>
主な事業実施内容	<p>9月23日:10周年記念講演会「ストレスなんか怖くない」高橋清久氏:パルテノン多摩小ホール</p> <p>4月より準備会</p>
参加者	来場者 261名(招待客、団体会員含む)
事業の成果	<p>講演会においては、講師の高橋先生が映像パネルを使って具体的に分かりやすく、しかも優しく親しみやすい語り口で話していただき、一般の来場者にも良い学びの時となり、偏見を越えて身近な問題として捉えることが出来たと感じた。</p> <p>音楽会(補助対象外事業)においては、シャンソン歌手勝永さんの気さくなトークで会場を沸かせながら、力強く切なく来場者の気持ちを揺さぶるような歌声を聞かせてくれた。フラメンコは独自のリズムとギター、踊りで見る人を引き付けた。R&Bの心意気と共に、すっかり会場を虜にし、溢れんばかりの勇気と元気をもらった。</p> <p>会員はもとより、来場者の方々も十分満足していただけたと感じ、この事業の目指すところを十分達成させることが出来た。</p>

総事業費	939,579円
補助対象経費	619,950円
補助額	335,000円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることができましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	講演会の演題が「ストレスなんか怖くないーストレスとうつへの対処法ー」という、一般市民にも大変興味深いものだったため、関心を持つ人が多かった。スクリーンを使ってわかりやすく説明して頂いたので、今まで考えたことの無かった人にも、良く理解出来たと思われる。音楽会も大盛況だった。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	団体の十年間の歩みを、市民の皆さんと共に振り返って、身近な問題として捉えてもらえたことは、社会的理解を得るために大変効果があったと感じる。今後も内に隠れることなく積極的に意識改革を目指していきたい。 音楽のひとつときは、対象外となってしまったが、切り離すことの出来ない精神的エネルギー源となって会を引き立てていた。計画した以上の効果と結果が得られたと思っている。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	今回の事業を経て、社会的ニーズが思っていた以上に高いと感じられた。精神障害者が社会の中で自立して普通に生活して行ける事を願って、また、社会全体が、互いに偏見と差別を越えて理解し合えるよう、今後とも積極的に働きかけて行きたいと考えている。

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
入場料収入	231,975 円	
お祝い金	10,000 円	
自己資金(負担)	42,975 円	
まちづくり事業補助金	335,000 円	
収入合計	619,950 円	

< 支出の部 >

人件費	72,000 円	受付・会場準備、場内整理・案内係り
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	80,000 円	講演会・講師謝礼
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	233,319 円	講座資料作成費、プログラム作成費、ポスター・チラシ作成費、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	56,000 円	舞台装置、会場パネル設置など
機器類の賃借(レンタル)料等	80,000 円	舞台・照明設備、音響設備、映写設備
イベントなどの会場等の使用料	38,400 円	パルテノン多摩小ホール、楽屋使用料
保険料等	0 円	
その他必要な経費	60,231 円	会場お花代、通信、記録、駐車料
支出合計	619,950 円	

事業名	アジア・太平洋女性連盟国際会議
団体名	プロGRESS・ジャパン
事業の目的	国際相互理解、特にアジア太平洋地域女性達と多摩の女性達の共通問題における理解と交流促進を目的とする。
主な事業実施内容	アジア・太平洋女性連盟国際会議開催 4月3日:国際会議開会式、基調講演:マドウ・バラ・ナス氏、分科会 4月4日:基調講演:堀内光子氏、分科会 4月5日:分科会報告、閉会式、さよならパーティー
参加者	国外約120人 国内(P.J.、一冊の会、エフエム多摩、東京都女性海外視察団の会、ソロプチミスト 他)
事業の成果	私共団体の考えである「国際会議をもっと身近なものとして一般市民に理解して欲しい」と云う願いが通訳機を通して内容を把握出来、自分達の問題としての意見を述べる事が出来た。そこに顔と顔で語り合う大切さと必要性を強く感じたと多くの参加者からの声を頂き、資金と人材があれば、その可能性をもっと充実することが出来ると云う確信を得た。今回を第一段階として又このような国際会議をして欲しいと云う希望者が多くいましたが、資金的面でかなり難しいのではないかと思います。せめて通訳設備があればと残念に思っております。

総事業費	5,876,672 円
補助対象経費	2,941,737 円
補助額	1,315,000 円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることにはできましたか	できた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	・直接アジア・太平洋の女性との対話が出来たこと。(全部通訳が入っていたのでよかった)多くの方々から日本から近い国々なのにあまり接点なかった 2年後の台湾会議にはぜひよびかけて欲しい。 ・多摩でこのような大きな国際会議が出来たことに感激。
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	完全とは云いがたいが、多摩における国際会議について一步前進したと考える。今迄都心での国際会議しか知らなかったが多摩で出来ることの可能性に驚き、自分達の団体も多摩にしたい。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	実行委員メンバーのほとんどが国際会議に参加及び設営をしたことがないので理解するまでに大分時間がかかった。次回にはきっともっとスムーズに行くと思う。(例)ビザの必要な国に対する事務手続きなど

決算内訳

< 収入の部 >

項 目	金 額	内 容
参加費	400,000 円	
寄付	740,000 円	
広告収入	325,000 円	
雑収入	65,000 円	お祝い金、プログラム等販売収入
参加費収入(補助対象外)	1,647,595 円	
自己資金(負担)	1,384,077 円	
まちづくり事業補助金	1,315,000 円	
収入合計	5,876,672 円	

< 支出の部 >

人件費、講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼、チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費については、補助対象経費から除外した。		
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	1,615,800 円	通訳・翻訳料
機器類の賃借(レンタル)料等	906,919 円	
イベントなどの会場等の使用料	382,000 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	37,018 円	
支出合計	2,941,737 円	

事業名	住民がつくる安全なまちプロジェクト
団体名	NPO夢のマネジメント社
事業の目的	オレオレ詐欺や押し売りなどの住民を狙う犯罪に対抗するITを活用する防犯手段を開発し、防犯劇のシナリオを作成して住民の仲間で劇団を結成して公演を行うモデル事業を開発する。この活動によって、住民による民間事業としての防犯活動を一般に広める。生活におけるライブカメラ活用法を開発する。
主な事業実施内容	防犯寸劇公演:5月8日(トムハウス)、6月24日(パルテノン多摩)、10月6日(トムハウス)、11月5日(パルテノン多摩)、2月4日(西落合小学校)、2月12日(トムハウス) ライブカメラ説明会:11月24日(NPOセンターと市内)、1月19日(NPOセンター)、2月12日(NPOセンター、トムハウス)
参加者	防犯寸劇:470名、ライブカメラ公演:30名(参加者)
事業の成果	<p>住民がつくる安全なまちプロジェクトは、警察学会会員、セコム研究所、厚生労働省防犯プロジェクトの支援を得て米国で進められているITを使う共助の理念に沿って進めてきたものであるが、4年目を迎えて住民が参加するビジネスモデルのパターンができた。評価としては東京都の青少年・治安対策本部の支援を得て内閣・全国知事会・各省庁公演の新しい日本を創る会主催の「まち・くらしづくり活動賞・振興奨励賞(全国25団体)」を受賞した。このビジネスモデルは総務省の通信関係部門などの協力を得て住民が社会参加をする共助のモデル事業として全国に紹介をしていくことにする。</p> <p>このプロジェクトは、70万円程度の経費で実施したがボランティア活動の生産性国際評価基準でみると、多摩市職員が同じ時間同じ内容を実施したとすると約450万円に換算される。このため住民の受託事業として成立させる活動を全国的に進めていくことにする。</p>

総事業費	1,023,139円
補助対象経費	541,999円
補助額	286,000円

決算内訳は、次ページ



< 自己評価 >

事業は申請(計画)どおり実施できましたか	概ねできた
計画時に期待した効果をあげることではできましたか	概ねできた
事業に対する市民ニーズ(利用者ニーズ)はどのようなものがありましたか。	市長の共助による防犯対策は米国をはじめとして世界的にいろいろな施策が進められているが、日本ではまだ具体策が実施されていない。警察学会や厚生省及びセコム研究所などからも評価を得ているので、この施策の事業パターンを普及していく。 (19年度まちづくり賞振興奨励賞:内閣、各省庁、知事会後援)
今回の事業について、どのように自己評価していますか。	高齢者の社会参加のパターンとしてはよいので、防犯施策の内容にライブカメラの活用法を更に開発していく必要がある。 また、事業収入を上げる施策を開発していく必要がある。
事業の自立に向けて、事業の改善点やより進めることはありますか。	民間主導の共助の防犯プログラムを、受託事業としていくことを政府機関、地方行政機関などに働きかけていく。多摩市ではモデルを作ったので、このプロジェクトを増やす活動を行う。

決算内訳

< 収入の部 >

項目	金額	内容
出演料	61,000 円	東京都治安対策本部、多摩防犯協会
寄付	150,000 円	住民有志
自己資金(負担)	44,999 円	
まちづくり事業補助金	286,000 円	
収入合計	541,999 円	

< 支出の部 >

人件費	8,000 円	入場者警備
講師・専門家、出演者等への報酬・謝礼	340,000 円	講師料、出演料
チラシ・ポスター・報告書等の作成費や印刷費、材料・消耗品等の購入費	20,599 円	演劇用小道具、印刷代、消耗品
専門的知識・技術等を要する業務を外部に委託した費用	98,000 円	シナリオ作家費用、IT指導料、パソコンサポート
機器類の賃借(レンタル)料等	0 円	
イベントなどの会場等の使用料	74,800 円	
保険料等	0 円	
その他必要な経費	600 円	駐車料
支出合計	541,999 円	